

## 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：宇都宮大学（総括責任者：進村 武男）

### プロジェクトの概要

宇都宮大学と栃木県の連携により、地域における野生鳥獣の保護管理対策を担う「地域鳥獣管理士」を5年間で総計60人以上養成する。大学院修士課程の学生を対象とした総合的な対策を計画する能力を備えた「地域鳥獣管理プランナー」と、社会人を対象とした地域における対策を直接助言・指導する能力を備えた「地域鳥獣管理専門員」を養成するプログラムを編成する。宇都宮大学の教育研究実績と栃木県の実務経験を相互に補完して特別カリキュラムを編成し、講義、演習、現地実習、インターンシップを行う。事業の実施と平行し、地元住民、自治体等が連携して地域の市町を事務局に「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」を構築して、地域鳥獣管理士の活躍を積極的に支援する。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

人間と野生動物の生活空間が中山間地域、里山のみならず都会の周辺でも重なってきている現在、野生鳥獣管理技術者の養成は非常に重要であり、また、高齢化や過疎化等の地域におけるニーズを踏まえたプロジェクトであると評価できる。今後は、鳥獣管理士の位置付けを明確化し、修了者の鳥獣管理士としての活躍が地域の社会ニーズへの真の対応となるなど実効あるものにするよう継続的な努力を期待する。

- ・ **進捗状況**：養成人数について目標を超えて達成するとともに、受講者を関東一円からも受け入れるなど評価できる。今後は、科学技術を活用した鳥獣管理のためのカリキュラムとなっているかを明確化することを期待する。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：講義と実習を組み合わせることで知識習得と実務研修のバランスを取っていることは、特に鳥獣害が発生する里山の現場で学ぶ機会を取り入れている点なども含めて、評価できる。今後は、資格修得によるメリットを明確化することを期待する。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：里山科学センターを設立し、栃木県と包括連携協定を締結した上で、栃木県による「鳥獣モデル地区」の設定や市町によるインターンシップの受入が実施されるなど、自治体等とは密接に連携しているものと評価できる。今後は、鳥獣管理士と

しての活躍の場を担保する仕組を一層拡大することを期待する。

- **人材養成ユニットの有効性**：修了者がモデル地区の取組に重要な役割を果たしている。また、鳥獣管理技術協会の設立も本プロジェクトの効果を高めるものとして評価できる。今後は、勉強会やフォーラム等にとどまらず、科学技術を活用することの仕掛けづくりを期待する。
- **継続性・発展性**の見通し：大学院農学研究科へのコース新設が検討されていることは評価できる。今後は、大学院におけるカリキュラムの充実と実学との融合による継続を期待する。